

岡山県（岡山県瀬戸内市）

R5補正
R6当初

59

背景・課題

瀬戸内市は、令和3年2月にゼロカーボンシティ宣言を行い、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにする目標としているものの、農業分野における地域にあった取組手法が確立できていない状況にある。

このため、基幹作物である水稻において、メタンガス発生抑制技術体系及びリモートセンシングによる適切な施肥・病害虫診断の検証を行い、環境負荷低減及び省力化を実現した持続可能な農業生産の確立を目指す。

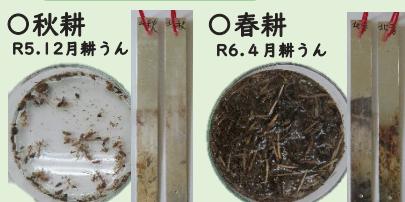
成果目標

- 秋耕、石灰窒素施用による稻わら腐熟促進及び中干し期間延長によるメタンガス発生量の削減
- リモートセンシング（ドローン等）の導入による適切な施肥・病害虫対策による作業時間の削減

主な取組内容

- 秋耕・石灰窒素施用及び中干し期間延長を行った結果、生育に大きな影響はなかった。
- リモートセンシング結果を追肥施用の有無や病害虫防除の薬剤散布時期の判断に用いた。

秋 耕



※R6.5月に土壤を採取し、残渣量を比較した。
※イオウチェック器設置期間：R6.7/19～7/30

- 春耕と比較して、秋耕の方が残渣量が少なくなった。秋耕では、腐熟促進のため石灰窒素を施用しており、その効果もあつたと考えられる。

- 秋耕の方が、イオウチェック器の反応が少なく、メタンガス発生量が削減されたと考えられる。

中干し期間の延長



※検証期間：7/26～8/9（慣行+7日）
※イオウチェック器設置期間：R6.7/30～8/9

- 慣行よりも、中干し期間を延長した方が、イオウチェック器の反応が少なく、メタンガス発生量が削減されたと考えられる。

- 中干し期間を延長することで、水稻の生育に大きな影響はなかった。

リモートセンシング

追肥前のセンシング結果



- ザルビオによるセンシングデータを活かして、追肥施肥の有無を判断した。

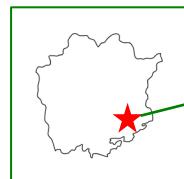
- 出穂期予測機能を活かして、出穂期前後の防除日程等を判断した。

普及に向けた取組

令和4～6年度の検証結果を踏まえ、令和6年度に「グリーンな栽培体系導入マニュアル」を作成中であり、今後、生産者を対象とした講習会等の実施により、県及び関係機関と連携して地域への普及・定着を図る予定。

問い合わせ先

瀬戸内市産業建設部産業振興課
TEL：0869-22-3934



瀬戸内市

構 成 員

瀬戸内市、瀬戸内市振興公社、岡山県、岡山市農業協同組合、農業者等

品 目

水稻